

食品の安全とリスク認知

食品の安全性に関するリスクコミュニケーター
(インタープリター型) 育成講座



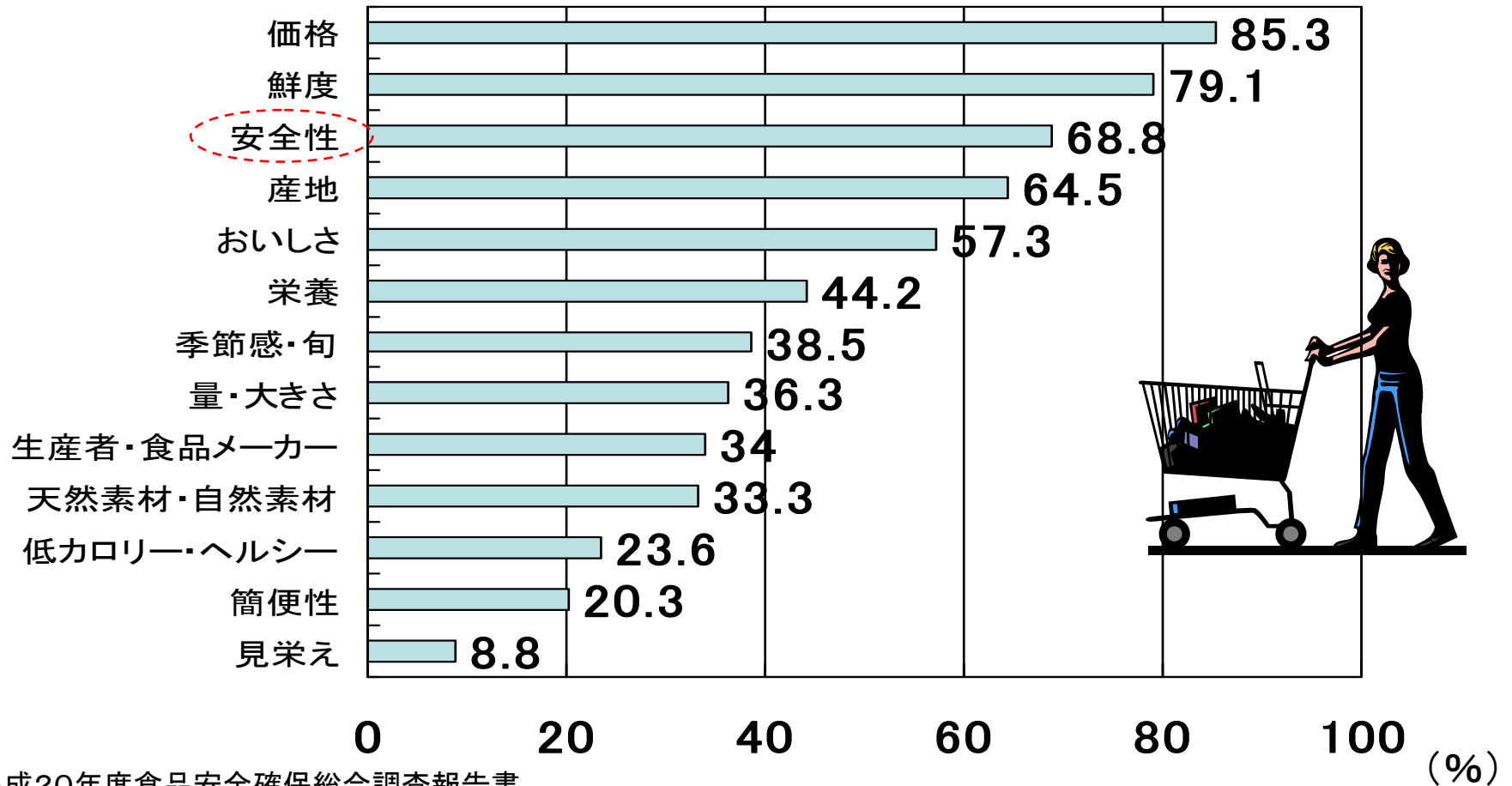
わたしたちは、
「安全」と「安心」について
さまざまな考えやイメージを
もっています。



食品の「安全・安心」について
考えてみましょう!

消費者の食品安全に関する認識（１）

食品を購入する際、重視していること(複数回答)

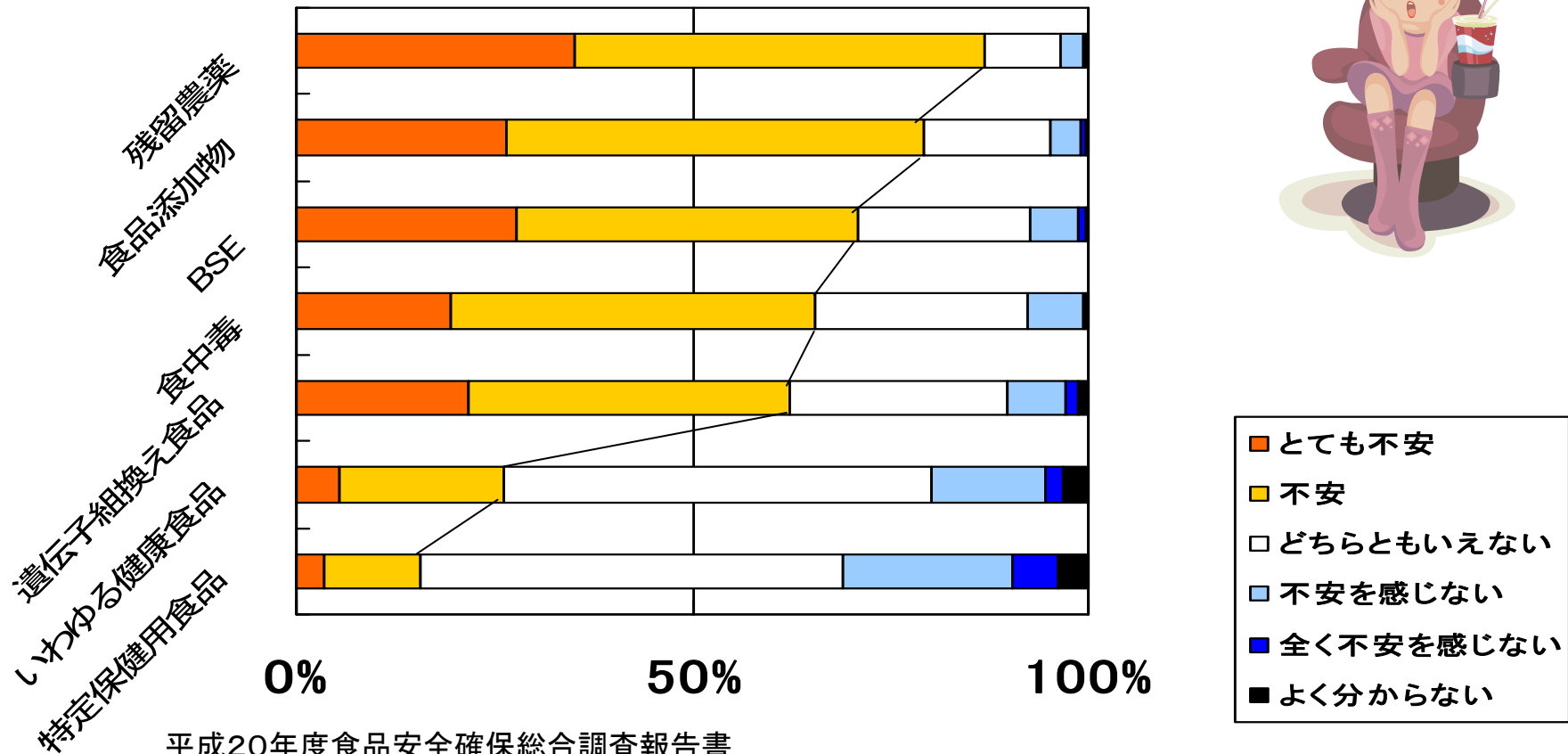


平成20年度食品安全確保総合調査報告書

リスク認知の形成要因等に関する調査(平成21年1月) 2000サンプル・インターネットアンケート

消費者の食品安全に関する認識（2）

あなたは、次の事柄にどの程度不安を感じますか？



平成20年度食品安全確保総合調査報告書
 リスク認知の形成要因等に関する調査(平成21年1月) 2000サンプル・インターネットアンケート

各自、紙に書いて発表してみましよう

テーマ

食品の安全性について
あなたは一人の消費者として
何に不安を感じますか？

- 1 A4横用紙に、「何に」不安を抱くか、
2つ書き出してみよう。 (3分)
- 2 各グループで、各自が順番にそれを発表
してみよう。 (5分で全員発表)
- 3 各グループでどんな意見が出たか、
他のグループの皆さんに発表しましょう。
(1グループ3分)

不安



安心

||

安心できないこと。
気がかりなさま。
心配。不安心。

【広辞苑より】

どうも“心”に
関係が
ありそうです



**食の「安全・安心」を
確保するために、
さまざまな施策を
充実させていきます。**

安全と安心はどう違うのでしょうか？

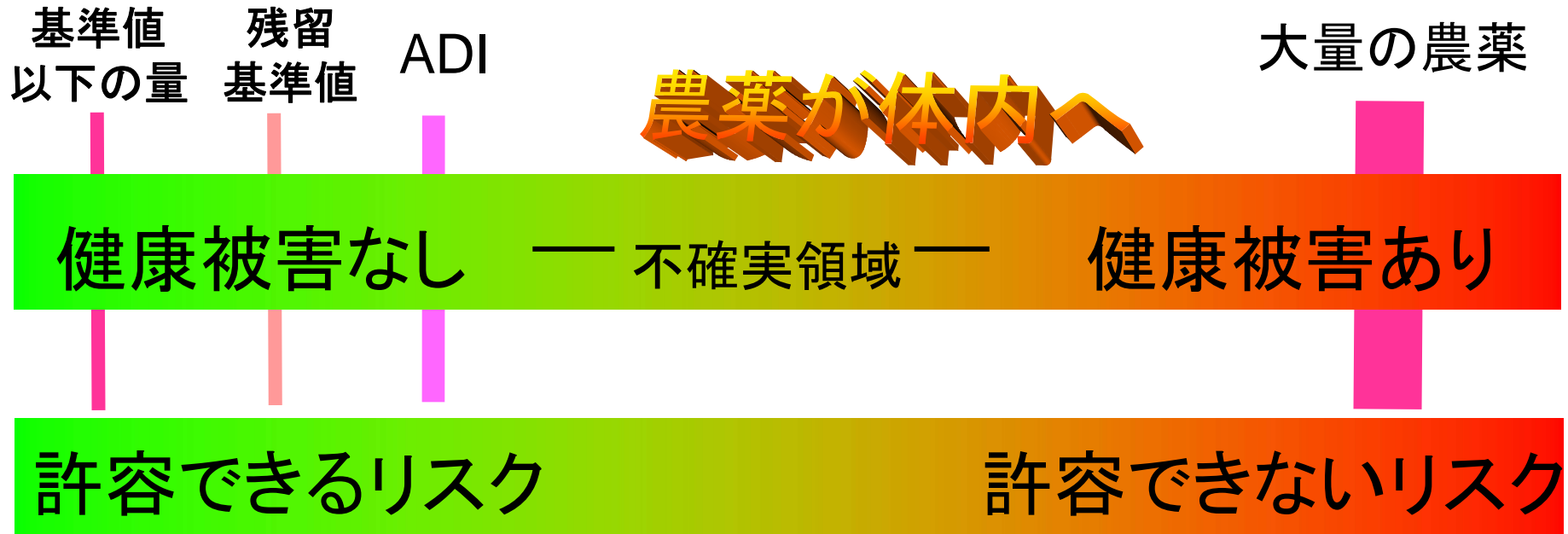
- **安全**・・・事実として（科学的に判断して）、
リスクが小さい状態
- **安心**・・・リスクが小さいと感じる心の状態
安全は、安心の基礎。しかし、
安全が必ず安心をもたらすとは言えない。

安全でも安心できない？

- 食品を含めどんなものにもリスクがある
- リスクのとらえ方は人によって差がある
〔科学的にリスクを評価し、それを適切に管理しても、それぞれの人のリスクの感じ方は異なる〕

“リスクをどのように感じるか = リスク認知” 心理学の領域が関係 → 付録A 参照

不安は、その人が考える「許容できるリスク」のレベルにもよる

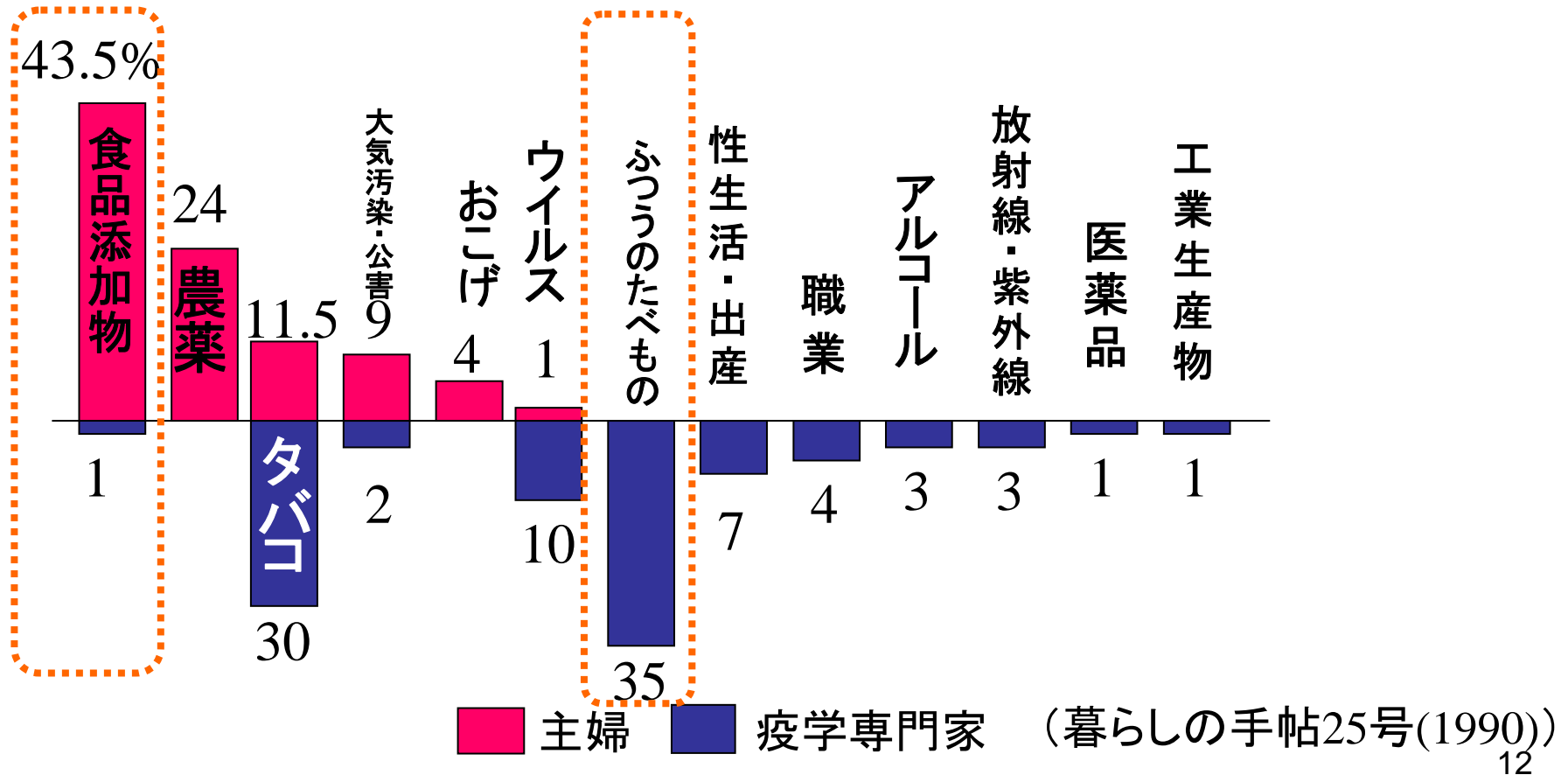


危険な農薬が体に入っているのに、
なぜ許容できるの？ 不安だよ。

科学的に安全と言われても、
化学物質だろう!? 不安だよ。

リスクのとらえ方は人によって差がある

何がガンの原因となると思うか？



私たちは食品のリスクについて いろいろな感じ方をします



- **食品に残留している量が安全性を左右する**
「リスクがある・なし」の方が分かりやすい
現実には、不確実領域で「どの程度なら許容できるか」で判断せざるを得ない事例が大半。
- **知らないものや見えにくいものは危険と感じる**
逆に・・・実際に患者が発生していても、経験している身の回りのことはリスクと思わない（例：食中毒）
- **危険をあおる情報を知りたがる傾向**
- **情報を出している機関が信頼されれば、安心感が得られる**
逆に・・・信頼されなければ、ゼロリスクを求めたがる

インタープリターは？

- リスクコミュニケーションには、一般的に、「送り手」と「受け手」が存在
- インタープリターは、その双方の機能を同時に有する（一人二役）
- 「受け手」としては、関係機関からの情報などを入手し、理解する
- 「送り手」としては、関係の方々に情報を分かりやすく伝える

各自、紙に書いて発表してみましよう

テーマ

今までのスライド内容を踏まえて

食品の安全性について
わかりやすく伝えるためには、
インタープリターとして
何を心がければいいのか？

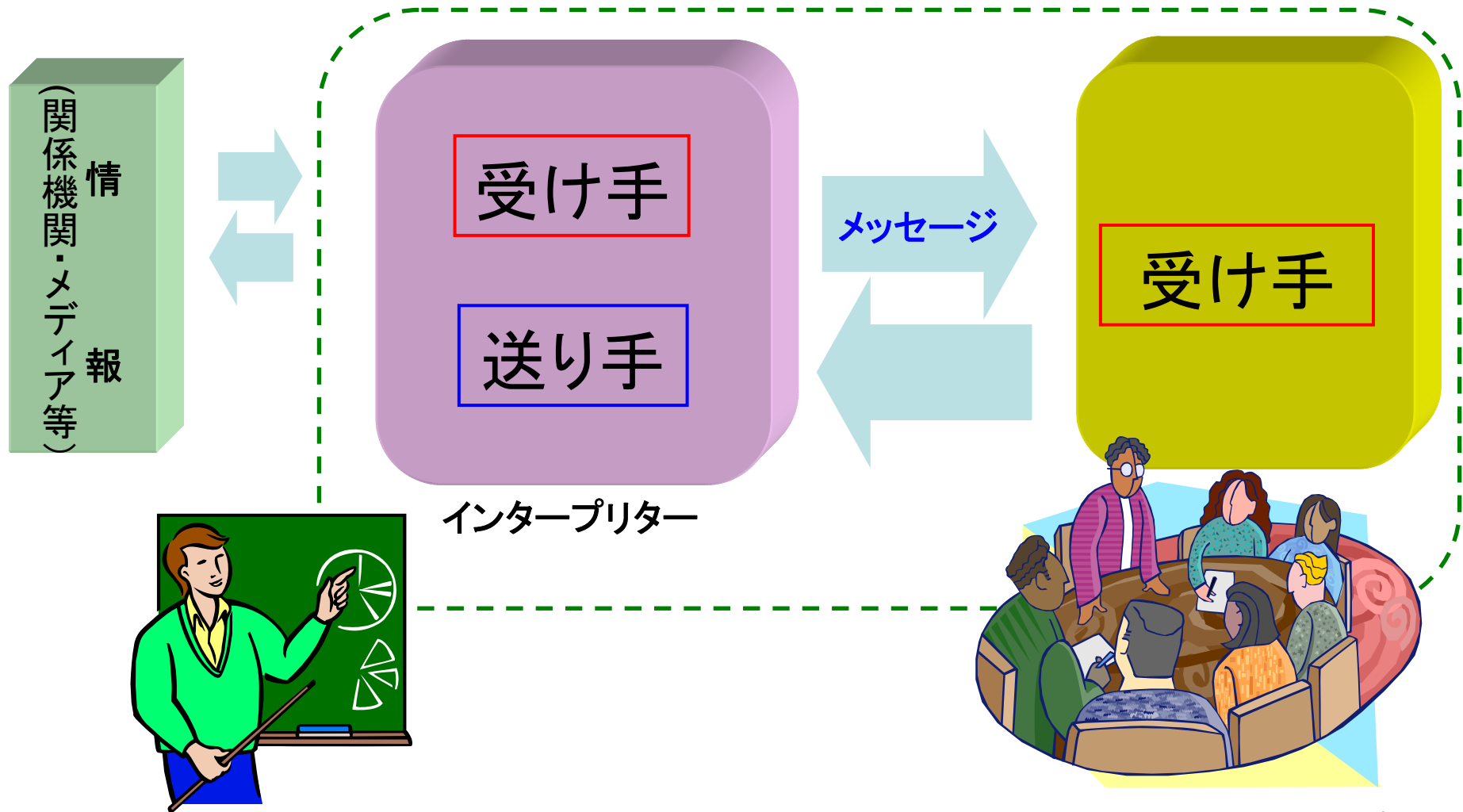
1 A4横用紙に、「わかりやすく伝えるために心がけること」を、3つ書き出してみよう。

(自由にイメージしてお書きください。正誤を問うものではありません) (3分)

2 各グループで、各自が順番にそれを発表 してみよう。(5分間で全員発表)

3 各グループでどんな意見が出たか、他のグループの皆さんに発表しよう。(1グループ3分)

インタープリターの性格



「受け手」としては・・・

□ 科学リテラシー

科学技術についての情報を理解するために必要な科学的知識水準を高める

□ メディア・リテラシー

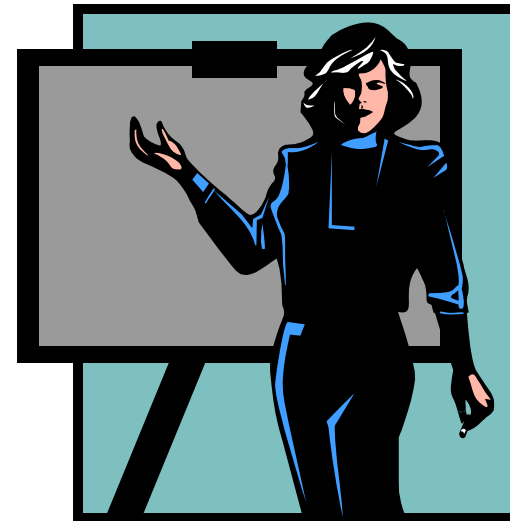
マスメディアの伝える情報を読み解く

□ 情報を批判的に読み解く



「送り手」としては・・・

- 人々のリスクの感じ方を的確にとらえ
- 伝える内容を理解し、分かりやすい言葉で
- 誠実につたえる



受け手、送り手の情報の伝え方詳細 → 付録B 参照

リスクの感じ方

	残留農薬	食品添加物	遺伝子 組換え食品	BSE
1	人体や将来世代に対する影響	人体や将来世代に対する影響	人体や将来世代に対する影響	安全管理体制・食品表示
2	安全管理体制・食品表示	安全管理体制・食品表示	安全管理体制・食品表示	蓄積性・将来世代
3	安全管理、回避方法、被害・影響に対する理解	安全管理、回避方法、被害・影響に対する理解	得体が知れない等の未知性	人体への健康影響
4	メリット認識	得体が知れないなどの未知性	安全管理、回避方法、被害・影響に対する理解	得体が知れない等の未知性
5	得体が知れない等の未知性	メリット認識	メリット認識	安全管理、回避方法、被害・影響に対する理解
6	事件・事故	事件・事故	*	*

平成20年度食品安全確保総合調査報告書より →付録C 参照

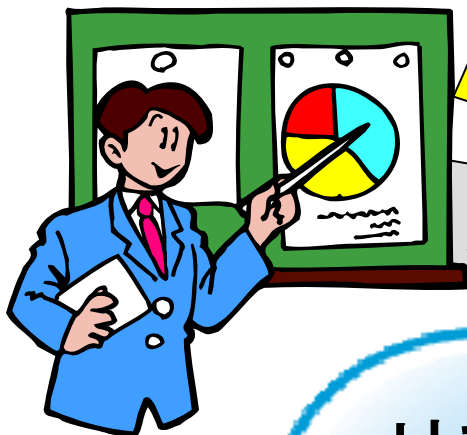
科学的に見たときの



インタープリター

分かりやすい説明
意見交換

スッキリ！



分かりにくい説明

モヤモヤ！



付録 A

リスク認知を左右する2つの因子

「恐ろしさ」因子

そのリスクは;

コントロールは困難か

世界的惨事となりうるか

致命的なものか

不平等にふりかかるか

将来世代への影響は高そうか

削減することは難しいか

増大しつつあるか

非自発的にさらされるか

「未知性」因子

そのリスクは;

観察できないものか

さらされている人にもわからないか

遅れて影響が現われるか

新しいものか

科学的にもよくわかっているか

『リスクのモノサシ---安全・安心生活はありうるか』中谷内一也著, 2006 図表3-1 より
原著 (Slovic, 1987)

情報提示の形態・特徴とリスク認知との関係 (1)

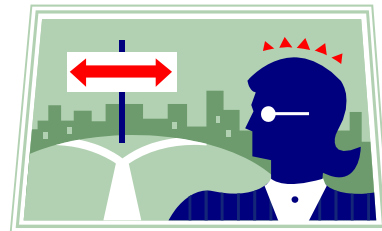
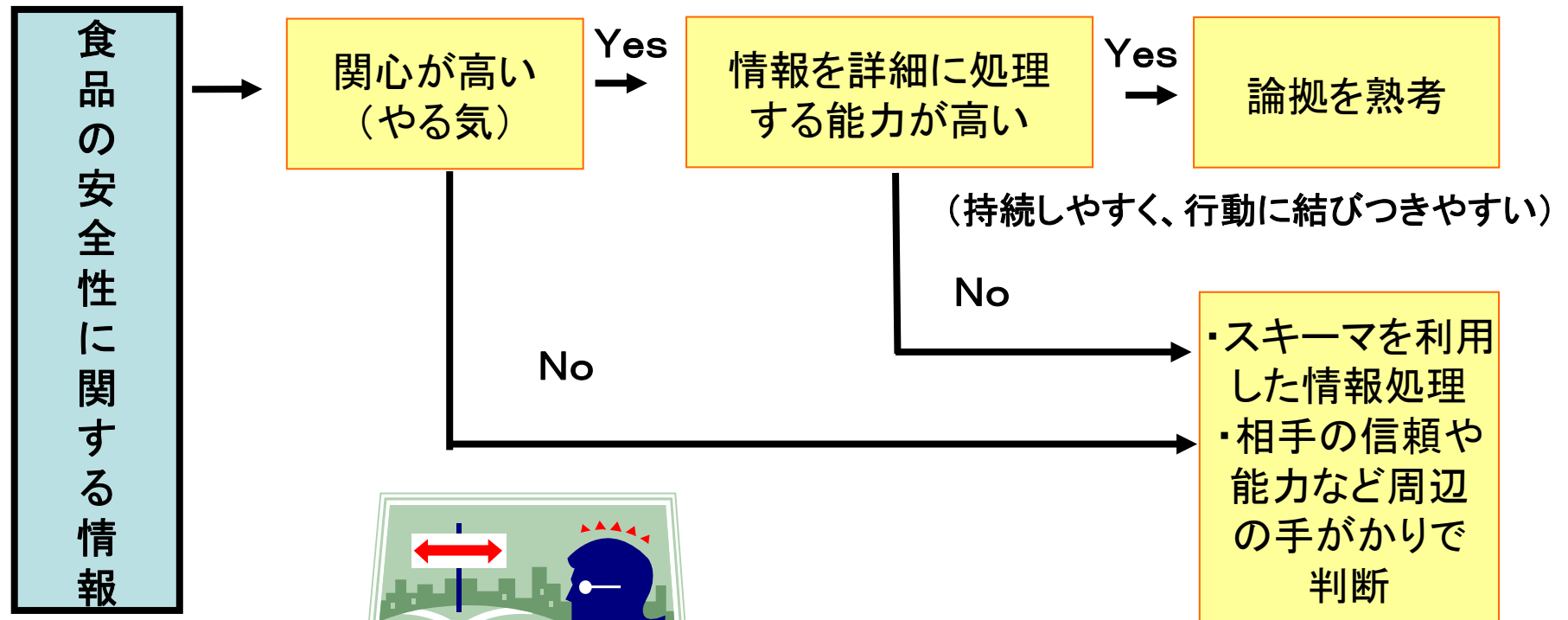
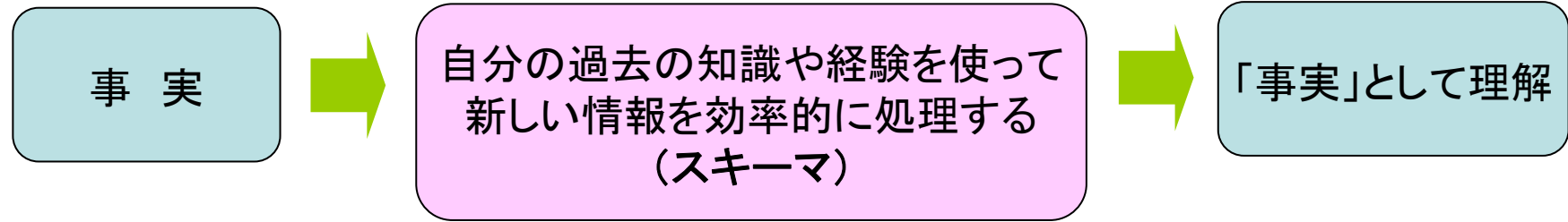
- 出来事の記憶しやすさや想像しやすさによって影響を受けやすい
→ 生々しい映像や画像は過剰なリスク認知を生む
- 単にリスクがあることを指摘するだけでは、リスク認知を高めてしまい、必要以上に恐怖を感じることもある
→ 怖がらせる＋対処法を提示する
- 強固な信念は容易に変えがたい
→ 個人の価値観において重要度の高いものは容易に変化しない

情報提示の形態・特徴とリスク認知との関係 (2)

- リスク情報の提示の仕方を少し変えるだけでリスク認知を変えることができる(フレーミング効果)
 - 標準的な構造に合致した話ほど受け入れられやすい
- 多くのリスク認知の要素があるにも関わらず、こと自分が関わるようなリスクについては、リスク認知が低い
 - 自身に関わるようなリスクは避けるように判断する

付録 B

受け手を理解しよう！



(直感、感情、連想に基づく系統的な判断)

(出典)中谷内一也「安全。でも、安心できない…」(ちくま新書)

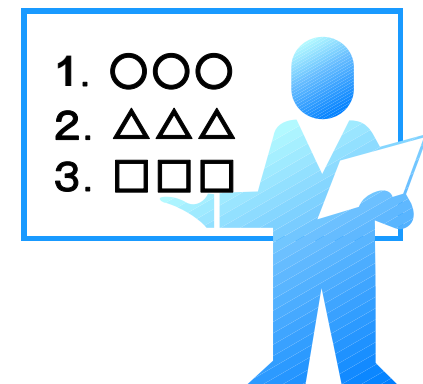
情報を伝える際に留意しよう！

➤ 注目される(関心を引く)状況をつくる

- 何を知りたいか、何を聞きたいか(ニーズ)
- 人は理解可能なものに注目する(スキーマ)
- 馴染み深いものは快く感じる、新奇なものは注意を引く
- つかみも重要 「面白そう」「楽しそう」「役に立ちそう」

➤ 構造化された話しは分かりやすい

- 情報の組立て(構造)に留意 「起承転結」
- 導入時にこれから話す項目をガイド
- 既存知識に関連 例:たとえ話



メッセージを考えよう！（1）

▶ メッセージの内容

- 情報が多ければいいのではない
- 内容を裏付ける強い論拠（科学的データ）が重要
- 反対論拠の扱い方 例：一面提示vs両面提示
 - 一面提示 > 反論なしの両面提示
 - 一面提示 < 反論ありの両面提示
- 恐怖を与えるメッセージ
 - 対処方法を述べること、コストとベネフィットにも触れる
- 圧力をかけるメッセージはあまり有効ではない
- 比喩は注意を喚起したり、知的にみられたりする



メッセージを考えよう！（2）

▶ メッセージの提示方法

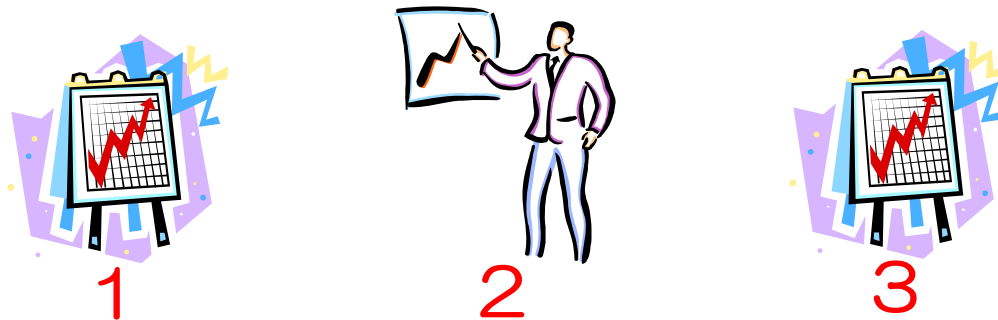
- 良い情報が先か、悪い情報が先か

①良い情報、②悪い情報の方が受け入れられ易い

- 反復は有効か

注意を喚起し、内容の理解が進む

3回程度が限度か……



送り手への信頼も影響！

➤ よいメッセージであっても、送り手次第で……

- 送り手の経験

経験者 > 専門家、マスメディア

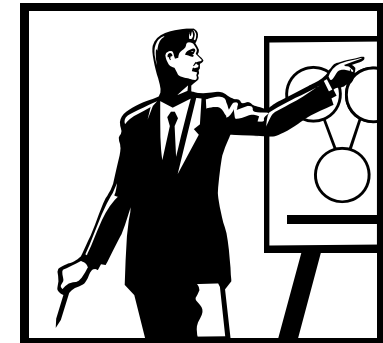
- 好感も重要

身体的な魅力も伝わる力を左右

能率的な髪型と服装

声の明確さ

ジェスチャー



信頼はどんなことと関係するの？

信頼の要素

能力	専門知識、技術がすぐれている
動機づけ	まじめ、一生懸命、公正など
主要価値	自分と同じ価値観



【イメージ】 船 能力・動機づけ = エンジンの性能・燃料
主要価値 = 方向舵

(出典) 中谷内一也「安全。でも、安心できない……」(ちくま新書)

コミュニケーションは総合的！

人間は、理性的動物であり、感情的動物

嫌な感性を喚起しやすい事柄
(農薬、遺伝子組換えなど)

恐ろしさ、未知性の要因

リスク認知が
高くなる

コミュニケーションの力点を考える必要

リスクにさらされる人の思いに
しっかり耳を傾け
相手の不安を理解する姿勢が重要



(出典)中谷内一也「安全。でも、安心できない……」(ちくま新書)

付録 C

残留農薬のリスクの感じ方(因子分析)

因子	内容	項目	寄与率(%)
1	人体や将来世代に対する影響	<ul style="list-style-type: none"> ・摂取するたびに人体に蓄積されている ・将来世代にまで影響を及ぼす ・いったん被害を受けると回復がむずかしい ・怖い、恐ろしい ・人体に悪い影響を与える 	15
2	安全管理体制・食品表示	<ul style="list-style-type: none"> ・国など行政による安全管理施策・体制が確立している ・生産者、食品の製造・流通過程の安全管理施策・体制が確立している ・国の安全基準が科学的な健康影響評価によって設定されている ・食品表示によって消費者の選択肢が確保されている 	13
3	安全管理、回避方法、被害・影響に対する理解	<ul style="list-style-type: none"> ・どのように安全管理されているか知っている ・どのようにすれば回避できるか知っている ・どのような被害・影響があるのか知っている 	9
4	メリット認識	<ul style="list-style-type: none"> ・野菜への虫の付着を防ぐなど、自分の食生活の中で役立っている ・害虫から作物を守るなど、作物生産の段階で、社会に貢献している 	7
5	得体が知れないなどの未知性	<ul style="list-style-type: none"> ・得体が知れない ・科学的に未知・不確かなものである 	7
6	事件・事故	<ul style="list-style-type: none"> ・事件・事故が発生したときの被害が大きい ・事件・事故が発生する確率が高い 	6

食品添加物のリスクの感じ方(因子分析)

因子	内容	項目	寄与率(%)
1	人体や将来世代に対する影響	<ul style="list-style-type: none"> ・摂取するたびに人体に蓄積されている ・将来世代にまで影響を及ぼす ・人体に悪い影響を与える ・いったん被害を受けると回復がむずかしい ・怖い、恐ろしい ・安全性を判断する材料が不十分 ・人工的・人為的である 	20
2	安全管理体制・食品表示	<ul style="list-style-type: none"> ・国など行政による安全管理施策・体制が確立している ・生産者、食品の製造・流通過程の安全管理施策・体制が確立している ・国の安全基準が科学的な健康影響評価によって設定されている ・食品表示によって消費者の選択肢が確保されている 	15
3	安全管理、回避方法、被害・影響に対する理解	<ul style="list-style-type: none"> ・どのように安全管理されているか知っている ・どのようにすれば回避できるか知っている ・どのような被害・影響があるのか知っている 	10
4	得体が知れないなどの未知性	<ul style="list-style-type: none"> ・得体が知れない ・科学的に未知・不確かなものである 	8
5	メリット認識	<ul style="list-style-type: none"> ・味、見栄え、保存性をよくするなど、自分の食生活の中で役立っている ・酸化防止、保存性の向上など、食品製造・加工・流通の面からも社会にとって有益なものである 	7
6	事件・事故	<ul style="list-style-type: none"> ・事件・事故が発生したときの被害が大きい ・事件・事故が発生する確率が高い 	5

遺伝子組換え食品のリスクの感じ方(因子分析)

因子	内容	項目	寄与率(%)
1	人体や将来世代に対する影響	<ul style="list-style-type: none"> ・人体に悪い影響を与える ・摂取するたびに人体に蓄積されている ・将来世代にまで影響を及ぼす ・事件・事故が発生する確率が高い ・いったん被害を受けると回復がむずかしい ・怖い、恐ろしい ・事件・事故が発生したときの被害が大きい 	24
2	安全管理体制・食品表示	<ul style="list-style-type: none"> ・国など行政による安全管理施策・体制が確立している ・国の安全基準が科学的な健康影響評価によって設定されている ・生産者、食品の製造・流通過程の安全管理施策・体制が確立している ・食品表示によって消費者の選択肢が確保されている 	17
3	得体が知れないなどの未知性	<ul style="list-style-type: none"> ・安全性を判断する材料が不十分 ・得体が知れない ・科学的に未知・不確かなものである 	10
4	安全管理、回避方法、被害・影響に対する理解	<ul style="list-style-type: none"> ・どのように安全管理されているか知っている ・どのような被害・影響があるのか知っている ・どのようにすれば回避できるか知っている 	10
5	メリット認識	<ul style="list-style-type: none"> ・作物の生育向上、大量生産など、食糧確保の面などからも、社会にとって有益なものである ・栄養価の向上、病気の予防など、自分の食生活の中で役だっている 	6

BSEのリスクの感じ方(因子分析)

因子	内容	項目	寄与率(%)
1	安全管理体制・ 食品表示	<ul style="list-style-type: none"> ・国など行政による安全管理施策・体制が確立している ・生産者、食品の製造・流通過程の安全管理施策・体制が確立している ・国の安全基準が科学的な健康影響評価によって設定されている ・食品表示によって消費者の選択肢が確保されている 	18
2	蓄積性・将来世 代	<ul style="list-style-type: none"> ・摂取するたびに人体に蓄積されている ・将来世代にまで影響を及ぼす ・事件・事故が発生する確率が高い 	13
3	人体への健康 影響	<ul style="list-style-type: none"> ・人体に悪い影響を与える ・事件・事故が発生したときの被害が大きい ・いったん被害を受けると回復がむずかしい 	13
4	得体が知れない などの未知性	<ul style="list-style-type: none"> ・科学的に未知・不確かなものである ・得体が知れない 	10
5	安全管理、回避 方法、被害・影 響に対する理解	<ul style="list-style-type: none"> ・どのようにすれば回避できるか知っている ・どのように安全管理されているか知っている ・どのような被害・影響があるのか知っている 	9